【発表要旨】　　（別紙様式１）

＜発表者＞　指導区名：北薩指導区　　氏名：長谷川徳幸

1　発表テーマ

出水市における再造林推進に向けた取組

2　テーマの趣旨・目的　＜取組課題選定の背景含む＞

出水市の民有林面積は約13千haで，約７割がスギ・ヒノキ等の人工林となっている。このうち，利用可能な７齢級以上の面積は約93％と10齢級をピークに資源が充実している一方，１～６齢級までの森林資源が特に乏しい状況であり，今後，将来にわたり持続可能な森林経営を行っていくためには，森林の循環利用を進めていく必要がある。

しかしながら，人工林の伐採が年々増加する一方で，再造林率は，平成29年度から令和３年度の平均で28％と低位に留まっており，このままの状態が続けば，当市の森林資源の循環利用は困難となり，森林資源が枯渇する恐れがある。

再造林率が上がらない要因として，市外，県外業者が再造林を行っていないことがあげられることから，いかにして取り組ませていくかが課題となっている。

また，再造林に必要な苗木を確保するため，生産供給体制の整備を図る必要があり，「伐ったら植える」という意識を関係者間で共有させることが重要となっている。

3　現状及びこれまでの取組みの成果・課題

①　現状

【出水市の再造林の現状】　　H29からR3の再造林率の平均　28％

項目	H29	H30	R1	R2	R3
主伐面積	23.0ha	22.0ha	30.6ha	5.1ha	50.3ha
再造林面積	1.9ha	1.7ha	20.4ha	7.0ha	5.1ha
再造林率	8%	8%	67%	135%	10%

【出水市における苗木生産の現状】

項目	H29春	H30春	R1春	R2春	R3春
スギ裸苗	336千本	244千本	198千本	146千本	198千本
ヒノキ裸苗	24千本	35千本	39千本	20千本	32千本
スギコンテナ苗	-	-	3千本	7千本	16千本
生産者数	7名	5名	5名	9名	9名

②　成果

・出水市再造林推進会議の開催による再造林に対する意識の醸成
・県外伐採業者に対する再造林推進活動の実施による再造林計画面積の増加
・苗木生産実践講座の開催等による生産者の確保・育成
・種苗事業の活用によるコンテナ苗生産量の増大
・苗木需給情報の共有による予約販売の促進
・下刈省力化研修の開催による造林・保育コストの低減対策の普及
・林福連携による再造林の実施

【再造林】

項目	H29	H30	R1	R2	R3	**R4**
主伐面積	23.0ha	22.0ha	30.6ha	5.1ha	50.3ha	**25.9ha**
再造林面積	1.9ha	1.7ha	20.4ha	7.0ha	5.1ha	**10.2ha**
再造林率	8%	8%	67%	135%	10%	**39%**

※R4は見込み

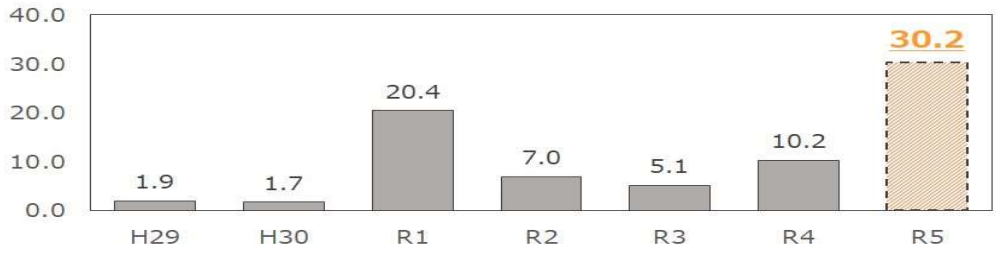
【苗木生産】

項　目	H29春	H30春	R1春	R2春	R3春	R4春	**R5春**
苗木生産者数	7名	5名	5名	9名	9名	10名	**10名**
うち，コンテナ苗生産者	－	－	1名	1名	1名	6名	**7名**
スギ，ヒノキ苗木生産量	360千本	278千本	240千本	172千本	246千本	144千本	**257千本**
うち，コンテナ苗生産本数	－	－	3千本	7千本	16千本	43千本	**148千本**

③　課題

令和５年度の市内林業事業体の造林計画は30.2haになるなど，再造林面積は今後，飛躍的に増加していく予定となっていることから，再造林，下刈りを担う労働力の確保・育成や苗木の増産が急務となっている。

【H29～R5　再造林面積】



4　今後取組むべき内容

①　具体的手法又は検討方向

ア　造林・保育コストの低減，必要な労働力の確保・育成

・「一貫作業」や「大苗植栽」などの新たな取り組みの提案

・再造林等に係る市単独補助事業の検討

・造林・下刈り専門の事業体の確保・育成

イ　優良苗木の安定供給体制の整備

・「新規苗木生産者」の掘り起こしや「生産技術向上」に向けた指導の実施による苗木生産量の増大

②　理由

これまでの普及活動や関係者との課題共有により市内林業事業体や県外伐採業者の再造林実施に係る意識が醸成されてきていることから，今後，増加する再造林に対応するため，労働力の確保やコンテナ苗の増産を早急に進める必要がある。

③　期待する成果

再造林面積の増大に伴う造林・下刈りの実行体制や苗木の増産体制の確立を図り，出水市における「循環型林業の体制づくり」，「再造林率の向上」に寄与する。